

園児 災害時の避難方法を学ぶ



学生にならない「ダンゴムシ」のよつに丸くなる園児ら。松本市新村の新村保育園で。

新村保育園 松本大生が講座

松本市新村の新村保育園の園児44人が同所の松本大で28日、年少、年中、年長の学生9人から災害時の避難方法を学んだ。

保育園がある新村地区と松本大は2016年から防災での連携を深め、その一環で18年から同大の学生が園児に防災講座を行っている。

同大地域防災科学研究所の入江さやか教授の授業を受講している学生らが、スライドで園児に避難方法を説明。クイズ形式で学んだ。

後は、音楽に合わせてダンゴムシのように丸まって頭を守るポーズを実践した。園児は「家に帰っても忘れないように」という呼びかけに対して、元気よく「はい」と答えていた。

入江教授は「講座を行うことで、学生は子どもたちの視線を学ぶことができ」と話し、総合経営学部4年の北田圭一郎さん(22)は「園児が実際にどんな動きをするのか分かった」と振り返った。

(中尾聖河)